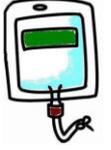


LSG15療法(ドキルビ`シ+オンビ`ソ+イント`キサソ+サイメリソ+イトホ`シト`+フィルデ`シ+カルボ`プラチン)の治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。()内は抗がん剤の成分名です。

お薬の名前	1日目	2~7日目	8日目	9~14日目	15日目	16.17日目	18~28日目
吐き気止め又はアレルギー予防	 30分	休	 30分	休	 30分	 30分	休
ドキシソルビシン (ドキシソルビシン) mg	 30分	休	 30分	休	—	—	休
オンコビン (ピンクリスチン) mg	 5分	休	—	休	—	—	休
エンドキサン (シクロホスファミド) mg	 2時間	休	—	休	—	—	休
サイメリン (ラニムスチン) mg	—	休	 1時間	休	—	—	休
エトポシド (エトポシド) mg	—	休	—	休	 90分	 90分	休
フィルデシン (ビンデシン) mg	—	休	—	休	 5分	—	休
カルボプラチン (カルボプラチン) mg	—	休	—	休	 1時間	—	休

★**起こりやすい副作用** これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

〈血液検査からわかる副作用〉

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、

治療開始後 7～14 日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！ 白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。

場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

血小板減少

血小板の数が少なくなることがあります。血小板は出血した時に血を止める働きがあります。

血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあります。そのため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。

⇒お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。

服用中の方は、主治医に申し出て下さい。

腎機能障害

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなると、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。

⇒500mL のペットボトル、2 本ぐらいを目安に水分をとりましょう。

心障害

心障害の主な初期症状として、階段や坂道をのぼるだけでも息苦しさを感ずる、疲労感が続く、咳が多くでる、手足にむくみが生じるなどの症状があります。

⇒上記のような症状が気になる場合、心臓の病気の既往がある場合は、お知らせ下さい。

〈ご自身でわかる副作用〉

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。症状に合わせて吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

便秘

便が硬くなって排便しづらくなることや、お腹が張ることがあります。

⇒便を軟らかくしたり、腸を動かすような薬を使って排便をうながします。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

発熱

抗がん剤点滴中～点滴後、一時的に熱が出るがあります。点滴した日の翌日までにすることが多いです。

⇒必要に応じて解熱剤を使うことがあります。主治医の指示に従って服用して下さい。

脱毛

抗がん剤の種類や患者さん個人によって違いはありますが、治療開始 2~3 週間後から抜け始めます。髪以外の部分（まゆ毛、ひげ、体毛など）でも同様におこります。治療が終了すれば、少しずつですが生えてきます。

⇒脱毛が気になる場合は、医療用かつらやウィッグ、帽子などをお勧めします。

末梢神経障害

治療を開始した直後に、手足がしびれることもあれば、徐々にしびれが出てくる場合もあります。治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかります。

⇒日常生活に支障が出る時は、主治医に相談して下さい。

筋肉痛・関節痛

一時的に肩や背中、腕や腰または関節などに筋肉痛のような症状がでることがあります。場合によっては、痛み止めを使います。

⇒痛いところを温めたり、マッサージをしてみましょう。

倦怠感

治療開始 2、3 日後に症状があらわれることがあります。また、治療が継続することで徐々に出てくることもあります。症状が強い場合には、お薬で対応することがあります。

⇒無理に動こうとせず、安静にして様子を見て下さい。

イレウス

腸閉塞により激しい腹痛、吐き気が起こることがあります。

⇒症状ある場合は早めに主治医にご相談ください。

出血性膀胱炎

排尿時に痛みを感じたり、尿に血が混じることがあります。抗がん剤投与後は普段より多めに水分をとるようにしてください。

⇒症状があらわれたら、すぐに医師に申し出て下さい。

血管痛・静脈炎

抗がん剤の刺激によって、点滴中～点滴後に血管に沿って痛みがでることがあります。

⇒痛みや異常を感じたら、我慢せずに医師・看護師にお知らせ下さい。

血管外漏出（壊死性）

点滴部周辺に不快感を感じる、赤くなる、痛みがでる、腫れるなどの症状があらわれることがあります。すぐに適切な処置をしなければ、潰瘍ができたり、ひどい場合には皮膚が壊死してしまうこともあります。

⇒痛みや異常を感じたら我慢せず、ただちに医師・看護師にお知らせください。外用薬などが処方された場合は継続して塗るようにしてください。ご自宅に帰られた後も、点滴部周辺に違和感を感じたり、症状が軽快しない場合は病院にご連絡ください。

★下記の様な副作用症状が発現した場合は病院へ連絡してください。

- ★「ふるえ」、「悪寒」、「38℃以上の発熱」、「肌のほてり」、「紅潮」（敗血症）
- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）
- ★「動くと息が苦しい」、「疲れやすい」、「足がむくむ」、「急に体重が増えた」（心障害）

※これ以外にも、いつもと違う症状を感じたら病院へ連絡してください。

担当薬剤師